

平成28年度 行政評価 施策カルテ

施策名	2 観光資源の活用促進
-----	-------------

施策主管課	観光交流課	総合計画記載頁	145ページ
-------	-------	---------	--------

1 施策の位置付け

政策の柱	IV 市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために	政策名 (基本施策名)	20 魅力ある観光と交流を創出する	政策の達成目標 (基本施策目標)	新たな資源が発掘、活用され本市の観光資源の価値がさらに高まり、市民も自らの地域に誇りを持つことで、多くの人に宇都宮を訪れ楽しんでもらえるような、魅力ある観光と交流が創出されています。
------	----------------------------------	----------------	-------------------	---------------------	---

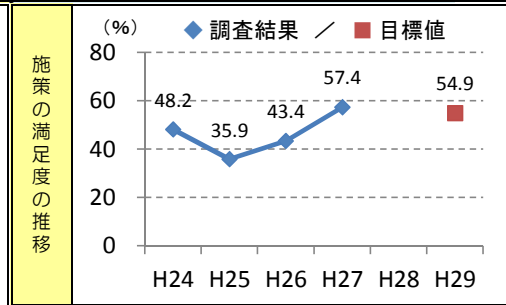
2 施策の取組状況

施策目標	人、産業、文化・スポーツなど、本市の優れた資源が観光に生かされ、本市の魅力が高まっています。
------	--

① 施策指標	指標名(単位)		H24	H25	H26	H27	H28	H29 (目標年)	評価	② 市民意識調査結果	指標3	指標名(単位)		H24 (現状値)	H25	H26	H27	H28	H29	評価
	指標1	年間入込客数(千人)	単年度目標値	13,761	13,995	14,250	14,500	14,750				15,000	A	調査結果	施策の満足度(%)	調査結果	48.2%	35.9%	43.4%	
現状値			13,531	実績値	13,145	13,752	14,170	14,701	前年度からの増減	-12.3%	7.5%	14.0%								
目標値(H29)			15,000	単年度の達成度	95.5%	98.3%	99.4%	101.4%												
指標2	観光客入込客数/市民1人	単年度目標値							B	【参考】中核市等との水準比較	指標名(単位)	H24	H25	H26	H27	H28	H29			
		現状値		実績値																
		目標値(H29)		単年度の達成度																
指標3	観光客入込客数/市民1人	単年度目標値							B	【参考】中核市等との水準比較	指標名(単位)	H24	H25	H26	H27	H28	H29			
		現状値		実績値																
		目標値(H29)		単年度の達成度																

※『①施策指標』の単年度の達成度の計算について

★ 増減型の指標(目標値が基準値より増加することが望ましいもの) (%)	$\frac{\text{実績値}}{\text{目標値}} \times 100$
★ 通減型の指標(目標値が基準値より減少することが望ましいもの)	$\frac{\text{目標値}}{\text{実績値}} \times 100$



※ 評価の考え方	① 施策指標	A: 達成度90%超 [33点]	B: 達成度70%~90% [25点]	C: 達成度70%未満 [15点]
	② 市民意識調査結果(満足度)	A: 前年度より向上 (+5pt超) [33点]	B: 前年度同水準 (±5pt以内) [25点]	C: 前年度より低下 (-5pt超) [15点]
	③ 主要な構成事業の進捗状況	A: 計画以上 (主要な構成事業の2割超が計画以上) [33点]	B: 計画どおり (主要な構成事業の8割以上が計画どおり) [25点]	C: 計画より遅れ (主要な構成事業の2割超が計画より遅れ) [15点]
総合評価	順調: (A評価が2つ以上(C評価がある場合を除く。)) [90点以上]		概ね順調: (主にB評価が2つ以上) [65点以上90点未満]	やや遅れている: (C評価が2つ以上) [65点未満]

取組内容と成果・成果の要因、進捗の状況

施策を取り巻く環境等	・平成24年に策定された観光立国推進基本計画においては、国内外の多様なニーズに応えるため地域の特性や資源を活用したニューツーリズムの推進、受入体制の強化が必要とされており、消費者への訴求力を一段と向上させるため、地域による情報発信の強化、旅行会社との連携強化等による誘客促進が推進されている。 ・栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査によると、県への観光客入込数は平成23年に震災の影響で大きく減少したが回復傾向にあり、平成27年は約9053万人と過去最多を更新した。	市民満足度	・集客力のあるイベントの開催等により、市民に本市の観光資源の魅力の周知が広がり、施策の満足度が向上したと考えられる。	総合評価	91点 順調
施策指標	・「餃子」「ジャズ」「カクテル」などのほか、文化、スポーツなどの観光資源を活用したイベントの開催や観光宣伝事業等に官民一体となって積極的に取り組んできたことにより、年間入込客数は過去最高を記録し、目標の達成につながった。				

3 施策を構成する事業の状況

※凡例 ○:「総合計画の戦略プロジェクト・主要事業」対象, ★:「③ 主要な構成事業の進捗状況」対象(5事業選択)

No.	事業名	戦略P・主要事業※	事業の目的	事業内容		事業の進捗状況	H27事業費(千円)	開始年度	日本一施策事業	施策目標を達成するための取組方針
				対象者・物(誰・何に)	取組(何を)					
1	広域観光宣伝事業(負担金)	★	・広域観光事業の推進	①栃木県観光物産協会 ②栃木県国際観光推進協議会 ③本物の出会い栃木観光推進協議会	各団体における広域的な連携による観光資源開発や宣伝PR事業に要する経費の一部を負担	計画どおり	995	H18		県や各市町等で構成する関係団体の事業に負担金を交付することにより、広域的に連携した誘客を促進し、本市の観光振興を図る。
2	MotoGP活用事業補助金		・広域観光事業の推進	MotoGPプレイベント実行委員会	・MotoGPプレイベントの実施 ・MotoGPを活用したPR	計画どおり	504	H24		MotoGPプレイベント実行委員会に交付金を交付することにより、世界各国から選手や観客が来場する「MotoGP世界選手権シリーズ(ツインリンクもてぎ開催)」を活用し本市知名度の向上や誘客促進を図る。
3	観光宣伝事業		・多様な手段による観光情報の発信	首都圏等在住者	・観光宣伝用ポスター作製、掲出 ・観光パンフレット(るるぶ宇都宮)作製、配布 ほか	計画どおり	10,650	S59		本市のイメージアップと集客力の向上を図るため、「るるぶ宇都宮」の配布や旅行雑誌への掲載、鉄道事業者へのポスター掲示など、本市の観光資源を活用した効果的な宣伝活動を展開することで、観光情報発信の充実を図る。
4	フェスタin大谷交付金	○★	・大谷地域観光の推進	フェスタin大谷実行委員会	・フェスタin大谷の開催に係る費用の一部を補助	計画どおり	3,000	H13		フェスタin大谷実行委員会に交付金を交付することで、イベントが円滑に開催されることを通じて、官民一体となって「石の里・大谷」を県内外に向けて広くPRして誘客促進を図り、大谷地域の地域活性化と観光振興を推進する。
5	大谷観光景観形成事業補助金		・大谷地域観光の推進	城山地区総合開発推進協議会	大谷地区、多気地区の美観維持に係る費用(岩肌のつた、雑草除去及び奇岩景観の保全)の一部を補助	計画どおり	1,200	H15		本市の貴重な観光資源である大谷・多気地区の景観事業を実施する城山地区総合開発推進協議会を支援し、本市の知名度向上と大谷地域の観光を推進する。
6	ふるさと宮まつり開催委員会事業補助金		・地域特性資源の活用促進	ふるさと宮まつり開催委員会	・宮まつりの開催に係る費用の一部を補助	計画どおり	11,100	S51		ふるさと宮まつり開催委員会に補助金を交付することで、イベントが円滑に開催されることを通じて、本市の知名度向上と観光振興を図る。
7	うつのみや花火大会実行委員会補助金		・地域特性資源の活用促進	特定非営利活動団体うつのみや百年花火	・うつのみや花火大会の開催に係る費用の一部を補助	計画どおり	2,500	H19		うつのみや花火大会実行委員会に補助金を交付することで、イベントが円滑に開催されることを通じて、本市の知名度向上と観光振興を図る。
8	大谷特性活用支援事業補助金		・地域特性資源の活用促進	市内に事務所又は事業拠点を有する法人、有限責任事業組合(LP)	大谷地域の貴重な地域資源を活用した新たな地域産業等の創出に向けた取組に係る経費の一部を補助	計画どおり	0	H23		大谷地域の地場産業である大谷石産業の活性化に向け、大谷石材協同組合との連携を図りながら、新商品・新製品の開発に向けた恒常的な取り組みの定着化に繋げる支援を行う。
9	二次交通観光活用事業		・地域特性資源の活用促進	本市来訪者	バス乗車券に観光施設入場券等を付帯した企画乗車券を販売	計画どおり	760	H26		公共交通機関を利用して本市を訪問する観光客が増加傾向にある中で、バス事業者や観光関係団体などと連携し、二次交通を活用したバス企画乗車券を企画実施し、市内周遊を促進する。
10	ジャパンカップサイクルードレースの開催	○★	トップレベルのスポーツに触れる機会の創出	ジャパンカップサイクルードレース実行委員会	・シクロクロス及びジャパンカップウィークの開催に係る運営支援、協力 ・クリテリウム及びサイクルードレースの開催に係る運営支援、協力	計画どおり	111,929	H4	トップクラス	ジャパンカップサイクルードレース実行委員会に交付金を交付することで、アジア最高位のジャパンカップサイクルードレースを開催し、サイクルースポーツの振興、国内外への「自転車のまち うつのみや」のPR、本市のイメージアップ、地域経済の活性化を図る。
11	プロスポーツチームへの支援・連携	○★	・プロスポーツチームへの支援と連携	・本市を拠点に活動する3プロスポーツチーム ・市民 ・本市来訪者	・公式戦や練習等に関する活動環境の支援 ・ファン層拡大のための広報支援実施 ・ホームゲーム開催に合わせた本市PRイベントの実施	計画どおり	628	H18		本市においては、プロスポーツチームの活動が、経済的効果や教育的効果を地域にもたらすなど、市政に貢献していることから、チームに対して支援を行うほか、交流人口の拡大と地域経済の活性化の地域資源として、連携、活用する。
12	オリンピック等キャンプ地誘致	○★	・コンベンション等の誘致強化	・各国競技団体 ・国際スポーツイベント主催者	・国際的なスポーツイベントの開催時における集客・交流促進に向けた企画及びPR	計画どおり	49	H26		オリンピックや国際大会などの大規模スポーツイベントのキャンプ地誘致が実現した場合には、選手やスタッフをはじめ、報道関係者など、大会関係者の活動拠点となり、本市の魅力が広く発信できるとともに、「スポーツへの興味・関心」の高まり、外国人選手等との触れ合いによる「スポーツを通じた国際交流の促進」など、効果が期待できることから、県や競技団体などの関係組織と連携、協力しながら取り組んでいく。
13	観光モニターツアー事業(再掲)		・着地型観光の促進	市外からの観光客、本市への宿泊客	様々な観光資源を組み合わせた魅力ある着地型旅行商品を作成し、誘客並びに市内周遊促進を図る	計画どおり	2,663	H27		市内観光事業者・交通事業者・業界団体等で構成される「着地型観光推進委員会」において、更なる官民連携による着地型観光の商品化・各団体開催イベントにおける連携等を図る。

4 今後の施策の取組方針

今後の方向性	
課題	<p>◆観光スタイルの変化に伴う観光ニーズの多様化や、アジアを中心としたインバウンドの増加、北陸新幹線・北海道新幹線の開通等による旅行圏域の拡大など、環境の変化に対応した観光事業の展開が必要である。</p> <p>◆本市を代表する”餃子”や石の里”大谷”などの既存の観光資源に、本市の歴史や文化・産業・スポーツ・農業等の観光資源を加えた新たなニューツーリズムの取組が必要である。</p>
方向性	<p>〈施策全般〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆平成25年4月に策定した観光振興プランに基づき、餃子や大谷をはじめとした観光資源の活用促進や体験型・産業観光の推進、グリーンツーリズムをはじめとする着地型観光の促進、広域連携による旅行商品の開発など、具体的な事業展開に向け取り組む。</li> <li>◆自転車などのスポーツを活かした観光誘客などの新たな取組を展開するなど、民間事業者と連携しながら、さらなる誘客を図っていく。</li> </ul> <p>〈主要事業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆フェスタin大谷 実行委員会と協力して、大谷地域への誘客促進・地域の活性化に繋がるイベントを引き続き開催する。</li> <li>◆ジャパンカップサイクルロードレース レースの充実に加え、本市の観光資源と組み合わせたツアーの実施などにより、さらなる誘客促進を図る。</li> <li>◆プロスポーツチームへの支援・連携 交流人口の拡大と地域経済の活性化の地域資源として、引き続き連携・活用する。</li> <li>◆オリンピック等キャンプ地誘致 誘致をきっかけとしたスポーツへの興味・関心の高まりや国際交流の促進を図る。</li> </ul> <p>〈その他個別事業〉</p>